

<p>1467~77 応仁の乱 戦国時代・群雄割拠</p> <p>1543 鉄砲伝来</p> <p>1560 桶狭間の戦い(織田信長)</p> <p>1573 室町幕府滅亡</p> <p>1582 本能寺の変</p> <p>1586 豊臣秀吉、太政大臣</p> <p>1590 秀吉による全国統一</p> <p>1600 関ヶ原の戦い</p>	<p>1549 ザビエル来日</p> <p>1569 信長、ルイス・フロイスを謁見</p> <p>1582 天正少年使節団</p> <p>1587 豊臣秀吉 バテレン追放令</p> <p>1596 長崎で26聖人殉教</p>
<p>1603 江戸幕府</p> <p>1639 ポルトガル船来航禁止</p> <p>1641 鎖国の完成</p> <p>1853、4 ペリー来航</p> <p>1854 日米和親条約</p> <p>1858 日米修好通商条約</p> <p>1859 開国</p> <p>1868 明治維新 神仏分離令 廃仏毀釈運動起こる</p> <p>1872 M5 紀元節 (神武天皇即位の日)</p> <p>1873 M6 岩倉具視ら欧米派遣</p>	<p>1614 徳川家康 禁教令 高山右近らマニラ、マカオへ追放</p> <p>1619 京都の大殉教 テクラ橋本ら52人</p> <p>1622 元和(げんな)大殉教、長崎で55人</p> <p>1623 江戸の大殉教 家光、品川で40人火刑</p> <p>1625 雲仙殉教</p> <p>1630 禁書令(キリスト教関係書籍輸入禁止)</p> <p>1637 島原の乱</p> <p>1640 キリシタン奉行設置 (踏み絵・寺請制度・宗門改め)</p> <p>1644 最後の宣教師小西マンショの殉教</p> <p>1859 プロテスタント宣教師来日 ウィリアムス長崎へ</p> <p>1865 信徒発見 大浦天主堂創建</p> <p>1867 浦上四番崩れ 114名が津和野・萩・福山へ</p> <p>1868 キリシタン禁制の高札 「切支丹邪宗門ハ旧ニヨリテ之ヲ嚴禁ス」 浦上、一村総流罪3300名が21藩へ 664名殉教 久賀島 五島崩れ 190名が2坪に</p> <p>1873 高札撤去 浦上664名殉教</p>
<p>1879 靖国神社</p> <p>1883 M16 鹿鳴館 欧化主義、脱亜入欧</p> <p>1889 M22 大日本帝国憲法</p> <p>1890 教育勅語</p> <p>1894 M27 日清戦争</p> <p>1904 M37 日露戦争</p>	<p style="text-align: right;">信教の自由 伝道の急伸</p> <p>1872 横浜バンド</p> <p>1877 札幌バンド</p> <p>1876 熊本バンド</p> <p>1884 M17 カトリック復帰者2万5千人</p> <p>1884 福沢諭吉、キリスト教を国教に</p> <p>1891 M24 内村鑑三・不敬事件</p> <p>1900 内村鑑三・「聖書之研究」創刊</p> <p>1904 内村鑑三・非戦論</p>

1910 日韓併合	
1911 不平等条約改正	
1912 M45 三教合同、(神、仏、基)	
1914 第一次世界大戦	
1917 ロシア革命	
1925 T14 治安維持法	
1928 改訂治安維持法(死刑)	
1929 大恐慌	
1931 満州事変	
1932 5. 15事件	
1933 小林多喜二、拷問死	
1935 共産党壊滅	
1936 2. 26事件	1918 内村鑑三・再臨運動 (57才)
1939 第二次世界大戦	
1941 日米開戦 改訂治安維持法(宗教活動弾圧)	1937 S12 矢内原忠雄・戦争批判によって東大退職 仏教徒検挙、竹中彰元(岐阜) 「戦争は罪悪である」
1945 原爆投下 浦上教会の信者 8500 人の死 敗戦	1938 富田統理、朝鮮へ、 神社参拝 1939 宗教団体法 1941 日本基督教団設立
1947 日本国憲法	1942 ホーリネス教団教職 96 名検挙 無宗派クリスチャンも 1943.4.7 ホーリネス教会に解散命令(249 教会) 11137 名の信徒
1950 朝鮮戦争 警察予備隊	1945 神道指令 信教の自由 国家神道の廃止 伝道の急伸 政教分離
1952 サンフランシスコ講和条約 日米安保条約	
1964-75 ベトナム戦争	1966 建国記念日制定 1967 日本基督教団 戦争責任告白 1969 靖国神社国家護持法案、第 1 回提出 1974 靖国神社国家護持法案、第6回提出 強行採決、自民党惨敗、廃案
1979 元号法制化	1985 中曽根首相公式参拝
1989 昭和天皇崩御	1990 新天皇即位、大嘗祭
1991 湾岸戦争	
1992 PK協力法(自衛隊の海外派遣) カンボジアへ	
1999 日米新ガイドライン関連法 国旗・国歌法、通信傍受法(盗聴法)、 改訂住民基本台帳法	
2001 9・11 テロ対策特別法	2000 第 4 回日本伝道会議、沖縄宣言 「和解の福音」
2002 アフガン侵攻 「不朽の自由」作戦	
2003 イラク侵攻 「イラクの自由」作戦 有事法制、イラク新法、自衛隊派兵	
2005 在日米軍再編案 陸軍第一軍団司令部の座間への移転 原子力空母の横須賀配備	
2008 金融危機	2009 第 5 回日本伝道会議、札幌宣言 「危機の時代の宣教協力」

「信教の自由」と現代のキリスト者

I 迫害とキリスト者

- ①ローマ帝国 1世紀-4世紀 30頃 十字架刑-313ミラノの勅令 約280年
1世紀末 ドミティアヌス帝
4世紀初 ディオクレティアヌス帝
- ②江戸幕府 16世紀-19世紀 1587バテレン追放令-1873高札撤去 約280年 全時代
- ③明治政府 1867 浦上四番崩れ
1865 信徒発見 1614 禁教令から250年、7世代後の復活、世界宗教史上の奇跡
1873 高札撤去 6年間の拷問に耐える(浦上のキリスト者)
第1条 大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第3条 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
第28条 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス
及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス
- ④第二次大戦中 宗教弾圧
ホーリネス、無宗派クリスチャン(再臨信仰)
無教会(平和主義、反戦)
- ⑤現代 憲法改訂、米軍再編、日米軍事同盟、自主防衛、大東亜戦争肯定論、戦争への道
ナショナリズム、右傾化、日の丸・君が代
貧富の格差、貧困層の増大

II キリスト者の使命

①社会的責任

預言者的使命

見張り人として

「国家」は、地上における秩序の維持のために、神によって立てられた。教会は、「神のしもべ」としての国家を敬い、そのために祈る(ローマ13章)。

しかし国家が、与えられた役割を越えて自己目的化するなら、教会は、神のみ旨にそむく国家とは鋭く対立し、警告の声を上げる。…すべての地上の国家は、自己を神聖化し、その国民に国家への無条件の忠誠を誓わせるとき、国家崇拜という偶像礼拝によって、「獣」化していく。…現代において、このような国家礼拝を生み出すのに大きな力を持っているのは、メディアである。特に、テレビ、映画などの映像的メディアの影響は大きく、人々を宗教的陶醉に導く「にせ預言者」的役割を果たしている。巧みな情報操作によって、プロパガンダが反復されるとき、大衆は批判能力を失い、他者の意見を自らの意見とし、圧倒的な「世論」が形成されていく。このような時代だからこそ、真偽を見抜く鋭い識別力が私たちに求められている。

「終末において「獣」化する国家の識別(黙示録から)」 JEA 神学委員会パンフレット4 「教会と国家」2004年

非暴力、平和主義 「剣を取る者はみな剣で滅びる」(マタイ 26:52)

②福音宣教

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。」

II テモテ4:2

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから終わりの日が来ます。」

マタイ 24:14

③「来世的基督教」 x 現世的基督教

1. キリシタン: 「ばらいぞといふ極楽」(天地始之事)

「(後生こそ)人の上に大事の中の一大事」(こんちりさんのりやく)、浄土教の影響
殉教の覚悟、マルチリヨの道

「殺されるはずの人々の数が満ちるまで」(黙 6:11)

「死に至るまで忠実でありなさい」(黙 2:10)

2. ホーリネス、無宗派クリスチャン、無教会: 再臨信仰
王の王・主の主、天皇の永久支配と対立